KARIBIB の回想

2023 年度１次隊/数学教育/渡辺 崇人

2024 年７月１日　Vol.15

写真１：午後５時の会場の様子

写真２：余興のダンス

Vol.14 で紹介した卒業式の日、実はその後に別のイベントがありました。その名も“MISS KJSS”。校内のミスコンです。全部で 12 名の女子生徒がエントリーし、各々がアピールを行った後に審査員の投票でその年の１番を決めます。ただし、これはただのミスコンではなく、学校への寄付も兼ねたイベントになっています。そのため、観覧希望者には大人も子どもも関係なく一律一人 N$50（≒400 円）でチケットを購入してもらい、購入者のみが入場できるようになっていました。会場は、学校とは別の集会所のような所を貸し切り、午後５時開演で準備を進めていました。その午後５時の様子が上の写真１です。ご覧の通りほぼ誰も揃っていません。というより、出演者も来ていません！安定のアフリカーンタイム発動により、スタートが夜の７時になりました。

ただ、スタートしたからといってすぐに始まる訳ではないのがここのお約束。出演者のセットアップ等があり、写真２のようにまずは余興のダンスが始まります。Vol.14 でも紹介した通り、ダンスタイムを挟むと会場のボルテージは最大になります。

☞

写真３：水着（審査①）　　写真４：白・ピンクのドレス（審査②）

さて、ここからはメインの出演者の登場です。最初は水着で登場しました（写真３）。皆が自分に似合うものを着用してアピールをします。それが終わると衣装替えをし、次は白

またはピンクのドレスで登場します（写真４）。この衣装の時は彼女たちからのダンスパフォーマンスがありました。

写真５：自作（審査③）

写真６（左）、７（右）：民族衣装（審査④）

写真８：ドレス（審査⑤）

写真９：グランプリ

その後も衣装替え→お披露目が続きます。その中で少し驚いたことが、自作の衣装も審査項目に入っていたことです（写真５）。新聞紙やパップ（Vol.3 参照）の粉が入っていた袋を上手く活用し、それぞれの独創性を活かしたユニークな衣装をお披露目してくれました。また、個人的に一番華やかだなと思ったのが、各々の民族衣装です（写真６，７）。見たことのある衣装もあれば、この日、初めて見る衣装もあり、どれも華やかさがありました。別の機会に民族について取り上げようと思います。その後、最後の衣装替えをし、ドレスのお披露目があり（写真８）、審査は終了しました。結局、この日だけで計４回の衣装替えがあり、その間はずっと誰かしらがステージ上でダンスをしている状態でした。そして、投票が済みグランプリも決定した（写真９）頃には既に深夜の２時。日をまたぐような学校行事は生まれて初めて経験しましたね(-.-)。早朝の卒業式の準備からずっと稼働していたため、途中の記憶がほぼありません。ただ、このような何時間にも及ぶイベントだったにも関わらず、生徒たちは開演からずっと踊っていました。ダンスから湧き出るア

写真 10：ゴミ拾いの様子

ドレナリンの恐ろしいこと(*_*)。。次から授業でもダンスミュージックを流したらもう少し集中するでしょうか？？いや、収拾がつかなくなりますね。。ただ、個人的にグランプリをあげたいのは写真 10 のように、閉会した後に率先して会場の後片付け、ゴミ拾いをしていた生徒たちです。衣装や演出の方が派手なため、エントリーした生徒やダンス出演者、DJ たちに注目が集まりがちですが、写真 10 のような彼らの存在があってこそ、様々なイベントが成り立ちます。今回のイベントを通して、そのような生徒にももっとスポットライトが当たると学校がますます活性化していくのではと思いました。そのため、今後はそういった働きかけを学校全体にやっていけたらと思います。

卒業後の生徒の進路(2)

Vol.14 に引き続き、卒業後の進路について紹介します。Gr12 に進学した後、さらに大学へ進学したい場合は、Gr11 同様、卒業試験も兼ねた試験（NSSCA）を再度突破する必要があります。ここで大学入学資格を得た場合、晴れて大学生となれます。実はナミビアで“大学”と呼ばれるものは、国内最大規模を誇る国立のナミビア大学（University of Namibia，UNAM)、公立のナミビア科学技術大学（Namibia University of Science and Technology，NUST)、私立の国際経営大学（International University of Management，IUM）の３つのみで、その数は日本とだいぶ異なります。ただ、大学以外でもオープンラーニング研究所（Institute for Open Learning，IOL）といった大学・大学院の卒業・修了と同等の学位が取得できる教育機関もあります。一方、これら以外の進路先として職業訓練校（Vocational Training Center，VTC）もあります。日本と同じく、手に職を付けるための学校です。その中に現在別の隊員が活動中であるナミビア鉱業技術専門学校（Namibian Institute of Mining and Tecnology，NIMT）もあります。生徒は Gr12 を卒業後、自身の希望進路や学力、試験の成績、経済状況等を総合的に勘案してこれら進学先を選択します。

一方で入学試験の結果が伴わず、希望の進路に進学できなかったものの、試験にもう一度チャレンジして希望する進学先へ進みたいという生徒向けに、日本でいう塾や予備校のような機関もあります。それをナミビア公開学習大学（Namibian Colleage of Open Learning，NAMCOL）といいます。各種コースは設けているものの、基本的には自分のペースで勉強し、再度受験をするようです。自身がこういった所に出向し「自身の夢を叶えるためにどうしても学力が必要だが、自力では難しい」という生徒相手に無償でサポートすることは、将来的にやってみたいことの一つではあります。

次は進学以外の選択肢です。なんといっても入学試験は難易度が高く、希望する進路先に進学できる者は本当に一握りで、スコアで０が並ぶことも珍しくありません。こういったスコアが０ないし１桁台の生徒の多くは、同僚曰く卒業後にショップ店員やストリートでの物品販売、Karibib で鉱山労働、見つからない場合は職探しをしているそうです。家にいると「庭の手入れでも掃除でも何でもいいから仕事が欲しい」と訪ねて来る人もたまにいます。このように何かしらの定職に就けるという意味では、ナミビアは日本よりシビアで、そのため空き巣や強盗等の犯罪が後を絶たないという一面もこの国にはあります。

次回：番外編として、ナミビア以外のアフリカ諸国を暫く紹介します。
最初は“滝”で有名なあの国です。